

## 劇場型首長の研究：ポピュリズム論から見た意義と戦略

著者	有馬 晋作
ファイル(説明)	博士論文全文 博士論文要旨 最終試験結果の要旨 論文審査の要旨
学位授与番号	17701乙人社論第1号
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10232/23699">http://hdl.handle.net/10232/23699</a>

## 学位論文の要旨

氏名

有馬 晋作

学位論文題目

劇場型首長の研究—ポピュリズム論からみた意義と戦略—

本論文は、我が国ポピュリズム研究において、すでに小泉政治から導き出されている「劇場型政治の視点を入れたポピュリズム」を、5人の劇場型首長分析によって普遍化しようとする試みであり、学術的研究が不十分な劇場型政治と一定の成果が出始めているポピュリズム論の接合を図るものである。また、劇場型首長の支持獲得の戦略を明らかにし、その功罪まで考察する。

序章は「ポピュリズム論における劇場型首長研究の意義」と題し、劇場型政治とポピュリズムを、そのルーツからみると異なる政治現象であることを指摘した上で、ポピュリズムの歴史と先行研究も踏まえ、劇場型首長が、その2つの政治現象の重なる部分つまりポピュリズムに劇的要素が取り入れられた最新のポピュリズムであることを明らかにした。また、本稿全体の分析方法について、説明している。

第1章は「首長の変遷と劇場型首長の登場」と題し、劇場型首長が登場する背景を、改革派首長の歴史をタレント知事の変遷すなわち首長の変遷からみた。そこには、無党派層の増加、テレポリティクスの本格化、地域経済の低迷と地域社会の閉塞感があるといえる。

第2章は「テレポリティクスと劇場型首長—メディアと大衆民主主義—」と題し、メディアとメディア研究の歴史を考察した上で、我が国におけるテレポリティクスの歴史を振り返り、小泉政権以降に本格化したとし、そこではテレビの特性に沿った発信が有効で、劇場型首長は、その点が得意で有利な環境になっているとする。また、劇場型政治の舞台となる大衆民主主義についてメディアの推移とともに考察した。

第3章は「田中康夫長野県政」と題し、小泉政権と重なる本格的テレポリティクス時代に入って登場した初の劇場型首長として、田中康夫長野県政の概要と、その劇場型政治の特色をみた。

第4章は「東国原英夫宮崎県政」と題し、本格的テレポリティクス時代の代表的なタレント知事ともいえる在任中高い発信能力を誇った東国原宮崎県政の概要と、その劇場型政治の特色をみた。

第5章は「橋下徹大阪府政」と題し、幅広く対決構図を作り典型的な劇場型政治を展開し、今も注目される橋下徹大阪府知事（現在、大阪市長）の府政の概要と、その劇場型政治の特色をみた。

第6章は「劇場型知事の相互比較」と題し、終章における劇場型首長の戦略と功罪の分析のために、これまでの3人の劇場型知事を比較し、その共通点と相違点、さらに特色を明らかにした。

第7章は「河村たかし名古屋市政」と題し、これまで考察した3人の劇場型知事はテレビ慣れしているメリットを生かし劇場型政治を展開したタレント出身の知事であったが、より激しい劇場型政治を展開する市長すなわち減税をめぐる議会と激しく対決した河村たかし名古屋市長の市政の概要と、その劇場型政治の特色をみた。

第8章は「竹原信一阿久根市政」と題し、鹿児島県の小さな市で登場した議会、職員組合と激しく対決し全国からも注目された竹原信一阿久根市長の市政の概要と、その劇場型政治の特色をみた。

第9章は「劇場型市長の相互比較」と題し、自治体規模が大きく違いますが劇場型政治では共通性が高い河村・竹下両市政を比較し、共通点と相違点、その特色を明らかにした。

終章では「劇場型首長の戦略と功罪」と題し、ポピュリズムの先行研究を参考に、幅広い支持獲得のため劇場型首長が取る戦略を検証し、その功罪すなわちメリット・デメリットを整理し、民主主義の視点から危惧する点に言及した。